

3月2日2時30分配信 毎日新聞

東京・池袋で臨床心理士らが実施した調査で、路上生活者の34%が知能指数（IQ）70未満だったことが分かった。調査グループによると、70未満は知的機能障害の疑いがあるとされるレベル。路上生活者への別の調査では、約6割がうつ病など精神疾患を抱えている疑いも判明している。調査グループは「どうしたらいいのか分からないまま路上生活を続けている人が大勢いるはず。障害者福祉の観点からの支援が求められる」と訴えている。

調査したのは、千葉県市川市職員で路上生活者支援を担当する奥田浩二さん（53）ら臨床心理士、精神科医、大学研究者ら約20人。池袋駅周辺で路上生活者を支援する市民団体と協力し、本格的な研究の先行調査として昨年12月29、30日に実施。普段炊き出しに集まる20～72歳の男性168人に知能検査を受けてもらい、164人から有効回答を得た。

それによると、IQ40～49＝10人▽IQ50～69＝46人▽IQ70～79＝31人だった。調査グループは「IQ70未満は統計上人口の2%台とみられることからすると、10倍以上の高率」としている。先天的な障害か、精神疾患などによる知能低下なのかは、今回の調査では分からないという。

調査グループは、IQ40～49は「家族や支援者と同居しなければ生活が難しい」▽50～69は「金銭管理が難しく、行政や市民団体による社会的サポートが必要」▽70～79は「日常生活のトラブルを1人で解決するのが困難」と分類している。

調査結果は3日、国立精神・神経センター精神保健研究所（東京都小平市）の主催で開かれる専門家のシンポジウムで発表される。【桐野耕一】